「第73回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議」

令和4年1月6日（木）15時00分
都庁第一本庁舎7階 特別会議室（庁議室）

【危機管理監】

それではただいまより、第73回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議を開始いたします。

本日の会議は感染症の専門家といたしまして、東京都新型コロナウイルス感染症医療体制戦略ボードのメンバーで、東京都医師会副会長でいらっしゃいます猪口先生。国立国際医療研究センター国際感染症センター長でいらっしゃいます大曲先生。東京 iCDC 専門家ボードからは、座長でいらっしゃいます賀来先生。そして医療体制戦略監の上田先生にご出席いただいております。よろしく願いいたします。

なお、武市副知事、潮田副知事、宮坂副知事ほか6名の方につきましてはウェブでの参加となっております。

それでは議事に入ります。

まず、「感染状況・医療提供体制の分析」のうち、「感染状況」について、大曲先生お願いいたします。

【大曲先生】

それではご報告いたします。

「感染状況」でありますけれども、総括としては、色は「黄色」としております。

「感染拡大の兆候があると思われる」という内容でございます。

新規陽性者数の増加比が著しく上昇し、これまでに経験したことのない高い水準になっております。いわゆるデルタ株からオミクロン株への置き換えりによる、急速な感染拡大に警戒する必要がある、といたしました。

それでは詳細について、ご報告をいたします。

①です。新規陽性者数でございます。

この7日間平均でありますけれども、前回は12月29日時点で1日当たり約44人でありましたが、今回1月5日時点で1日当たり約135人に増加をしております。増加比は約308%であります。

この7日間平均でありますけれども、1月5日時点で1日当たり約135人と、約3か月ぶりに1日当たり100人を上回っております。

南アフリカ等でデルタ株からオミクロン株への急速な置き換えりの進行が報告されてお

ります。我が国においても、置き換わりによる急速な感染拡大に警戒する必要があります。

増加比ですが、前回の約 155%から、今回約 308%と著しく上昇しています。これまでに経験したことのない高い水準になりました。新規陽性者数の 7 日間平均は、1 か月前の 1 日当たり約 16 人から約 8 倍に増加しております。現時点における増加比が今後も続けば、爆発的な感染拡大となります。

今週の新規陽性者数でありますけども、一方で年末年始中の休診による検査数の減少、そして検査報告の遅延等の影響を受けておりますので、報告数よりもさらに多い可能性があります。

また、今週は都内でも、海外への渡航歴がなく、感染経路が不明なオミクロン株の陽性者が、1 月 5 日時点での累計で 37 人いらっしゃいます。増加しています。感染経路が追えない事例から、デルタ株と比較すると感染拡大のスピードが速いとされる、いわゆるオミクロン株の感染が、急速に拡大していると思われま。

一方、検疫以外で判明した渡航歴あり、または陽性者の濃厚接触者である都民のオミクロン株の陽性者、こちらは 1 月 5 日時点で 35 人と、こちらも増加しております。

都では入国帰国後、自宅で 14 日間待機する都民の方を対象として、感染の早期発見や不安解消のために、PCR の検査キットの配付を開始しています。

また、変異株 PCR スクリーニングや、ゲノム解析を実施するとともに、諸外国の動向、WHO、国立感染症研究所におけるオミクロン株の感染性、重症性、ワクチン効果に与える影響等の評価も踏まえて、発生状況を把握し適切に対応していく必要があります。

都では東京都健康安全研究センターにおいて、オミクロン株に対応した PCR 検査を行っています。また、変異株を早期に探知するために、民間の検査機関と連携して、新型コロナウイルス感染者のゲノム解析の規模の拡大を進めています。

感染拡大のリスクが高まっております。ワクチンの接種を検討中の都民に対して、ワクチンの接種が、重症化の予防効果と死亡率の低下が期待されていることを周知をして、ワクチンの接種をさらに推進する必要があります。

一方、ワクチンを 2 回接種した後も感染する可能性はあります。軽症や無症状でも、周囲の人に感染させるリスクがあります。ですので、ワクチンの接種後も、普段会っていない人との飲食や旅行、その他の感染リスクの高い行動を引き続き避けるとともに、基本的な感染防止対策を徹底する必要があります。

オミクロン株の感染拡大に備えて、ワクチンを 2 回接種した都民に対する 3 回目の接種を早急に推進する必要があります。そのため都は、区市町村と連携して、順次ワクチンの 3 回目の追加接種ができるよう体制の構築を進めています。

各都道府県におけるオミクロン株の感染状況に応じて、効果的かつ早急にワクチンを配付することが求められます。

感染対策ですけれども、気温が低い中でも換気を励行して、手洗い、不織布マスクを隙間なく正しく着用すること、密閉・密集・密接の回避、そして人混みを避けて人との間隔をあ

ける等、基本的な感染防止対策を徹底することが重要であります。

ワクチンですが、東京都新型コロナウイルスワクチン接種ポータルサイトによりますと、1月4日時点で、東京都のワクチンの接種状況であります。全人口で1回目が78.0%、2回目が77.2%、接種対象者である12歳以上にしますと1回目が85.9%、2回目が85.1%、65歳以上では1回目が92.4%、2回目が92.0%であります。

次に①-2に移って参ります。

50代以下の割合が、新規陽性者全体の9割以上を占めております。中でも20代が28.8%と、各年代の中で最も高い割合となっております。12歳未満はワクチン未接種であることから、保育園・幼稚園、そして学校生活での感染防止対策の徹底が求められます。

次①-3に移ります。

高齢者であります。新規陽性者の中に占める65歳以上の高齢者数でありますけれども、前週12月21日から27日までの36人から、今週は40人となっております。その割合は7.7%であります。

7日間平均を見ますと、前回は1日当たり約4人、今回は1月5日時点で1日当たり約9人となっております。

医療機関そして高齢者施設等では、ワクチンを2回接種した職員、そして患者さん、入所者の方々も基本的な感染防止対策を徹底・継続するとともに、3回目の接種を検討する必要があります。また、職員や患者家族からの感染防止対策を徹底する必要があります。

次①-5に移って参ります。

濃厚接触者における感染経路別の割合でございます。

同居する人からの感染が56.8%と最多でございます。次いで職場での感染が12.5%、会食による感染が9.4%、施設及び通所介護の施設での感染が7.8%ございました。

今週は20代と30代における会食での感染例が見られました。また、都内の神社では、職員のクラスターが見られております。

新年会や賀詞交歓会、成人式等での、普段会っていない人との会食の機会は、新たな感染拡大の契機となる可能性がございます。長時間、大人数で会話をすること等によって感染リスクが高まることから、友人や同僚等との会食は、できる限り短時間、少人数として、会話時はマスクを着用することを繰り返し啓発する必要があります。

また、施設での感染を防止するために、保育園・幼稚園、教育施設、高齢者施設等における感染防止対策のより一層の徹底が必要であります。

職場に関しましては、事業者は、従業員が体調不良の場合に、受診や休暇取得を積極的に勧めるとともに、テレワークや時差通勤、オンライン会議の推進、3密を回避する環境整備等の推進といった、基本的な感染防止対策を徹底することが、こちらも引き続き求められます。

次①-6に移って参ります。

今週の新規陽性者521人ですけれども、無症状の陽性者は64人です。割合ですが前

週が 17.4%、今週が 12.3%でございます。

①-7 に移ります。今週の保健所別の届出数であります。

多い順に見ますと、世田谷が 57 人と最も多く、次いで新宿区が 46 人、みなとが 37 人、大田区が 31 人、目黒区が 29 人でございます。

感染の拡大に備えて、都、保健所、医療機関等が連携をして、地域全体で早期発見、早期治療の体制を強化する必要があります。

次①-8 に移って参ります。地図で見参ります。

今週は 3 か月ぶりに、1 か所の保健所で 50 人を超える新規陽性者数が報告されております。

①-9 ご覧ください。このような状況でございます。

いわゆるデルタ株からオミクロン株への置き換わりによる急速な感染の拡大に警戒する必要があります。

次に、②#7119 における発熱等の相談件数であります。

7 日間平均ですが、前回の 47.9 件から、今回は 84.3 件と増加をしています。

また、都の発熱相談センターにおける相談件数の 7 日間平均ですが、前回の約 629 件から、今回は 1 月 5 日時点で約 1,270 件に増加をしています。

発熱相談件数の 7 日間平均が増加しております。感染拡大の予兆が見られます。また、連休中は#7119 における発熱相談件数が増加する傾向にあります。その影響も考慮した上で評価をしていく必要があります。

都は、年末年始に回線数を増強して、発熱相談センターの体制強化を図っております。引き続き#7119 と発熱相談センターの連携を強化していく必要があります。

次、③です。新規陽性者における接触歴等不明者数と増加比でございます。

不明者数であります。7 日間平均で前回は 1 日当たり約 27 人、今回は 1 日当たり 91 人となっております。

接触歴等不明者は 3 週間連続して大きく増加しております。接触歴等不明者の周囲には、陽性者が潜在していることに注意が必要でございます。

次③-2 に移ります。

この増加比でありますけれども、前回は約 171%で、今回は約 342%と大きく上昇しております。

感染経路が追えない第三者からの潜在的な感染を防ぐために、基本的な感染防止対策を常に徹底する必要があります。

次、③-3 に移ります。

新規陽性者に対する接触歴等不明者の割合であります。

前週が約 60%、今週は約 63%であります。また、年代別の接触歴等不明者の割合であります。10 代以下、70 代及び 80 代以上を除く全年代で 60%を超えております。

このようにいつどこで感染したか分からないとする陽性者が、幅広い年代で、非常に高い

割合となっております。新規陽性者との接触歴がある無症状者への PCR 検査等、積極的疫学調査の充実が求められます。

私からは以上でございます。

【危機管理監】

ありがとうございました。

続きまして「医療提供体制」について、猪口先生からお願いいたします。

【猪口先生】

はい。では「医療提供体制」についてご報告させていただきます。

色は「緑」、「通常の医療との両立が安定的に可能な状況である」といたしました。

変異株（オミクロン株）の急速な感染拡大に備え、海外の感染状況を踏まえ、感染者の基礎疾患、重症度、年齢構成等を把握、分析しながら、入院医療、宿泊及び自宅療養の計画を前倒しする必要がある、といたしました。

では、詳細についてお話しします。

④検査の陽性率です。

7日間平均の PCR 検査等の陽性率は、前回の 0.8%から 2.5%となりました。また、7日間平均の PCR 検査等の人数は約 5,900 人から、1月5日時点で約 4,624 人となっております。

検査件数が連休の影響で減少した一方、新規陽性者数が増加したため、陽性率は上昇いたしました。

ワクチン接種済みであっても、発熱や咳、痰、倦怠感等の症状があってもなくても、自分自身に濃厚接触者の可能性がある場合は、かかりつけ医、発熱相談センターまたは診療・検査医療機関に電話相談し、早期に PCR 検査等を受けるよう周知する必要があります。都は、公表を了解した診療・検査医療機関のリストをホームページ上に公表しております。

都では、感染リスクの高い環境にある等、感染不安を感じる無症状の都民が、薬局や民間検査機関等において、PCR 検査等を無料で受けられる取組を都内約 180 か所で開催しております。

⑤救急医療の東京ルールの適用件数です。

東京ルール適用件数の7日間平均は前回の 57.7 件から 66.4 件と、依然として高い水準で推移しております。

二次救急医療機関や救命救急センターでの、救急患者の受入れ体制への影響は拡大傾向にあります。また、救急車が患者を搬送するための現場到着から病院到着までの活動時間は、過去の水準と比べると依然延伸しております。

⑥入院患者数です。

入院患者数は前回の 206 人から 373 人に増加いたしました。今週新たに入院した患者さ

んは、186 人です。陽性者以外にも疑い患者について、都内全域で 1 日当たり約 123 人を受け入れております。

入院患者数は 11 月 18 日以降、100 人を下回って推移しておりましたが、12 月 18 日に 100 人を超え、1 月 5 日時点で 373 人となっております。入院患者数は増加傾向にあるものの、現時点では、通常医療との両立が安定的に可能な状況にあると思われま

す。現在、オミクロン株の患者とデルタ株の患者の同室での入院療養は認められておりません。この状況が続けば、病床が逼迫する恐れがあり、対処方針の変更が求められます。

現在、都における確保病床数はレベル 1 の 4,839 床ですが、オミクロン株の感染拡大に備えた特別対応として、オミクロン株陽性者の急増時には、レベル 3、6,919 床の体制に移行することとしております。

オミクロン株の感染拡大を防止するため、都は、濃厚接触者と確認された方を特定の宿泊療養施設で隔離し、健康観察をしております。また、オミクロン株の感染拡大に備え、宿泊療養施設の更なる確保を進めております。

都では、軽症者等を一時的に受け入れ、酸素投与や中和抗体薬による治療等も行われる酸素・医療提供ステーションを開設しております。

高齢者施設等におけるスクリーニング検査の実施、往診等による中和抗体薬投与の体制整備が求められます。また、中和抗体薬及び抗ウイルス薬の予防的投与を視野に入れた、国による安定的な供給が求められます。

現在、入院調整本部は、都内全域のオミクロン株の陽性者及び疑い患者の入院調整を実施しており、連休中は円滑に調整を行うことができました。オミクロン株の感染拡大に備え、「新型コロナウイルス感染者情報システム」の機能拡充や体制強化を図っております。

⑥-2 です。

1 月 5 日現在、あらゆる年代の患者が入院しております。保育園や学校での感染拡大に備える必要があります。このため、小児科を標榜する医療機関に対し、診療体制の確保を依頼しております。

第 5 波での、妊婦の感染者急増を踏まえ、都は、分娩取扱い医療機関等に対し、診療体制の確保を依頼しております。

⑥-3 です。

検査陽性者の全療養者数は、前回の 451 人から 1,206 人となっております。内訳は、入院患者が前回 206 人から 373 人、宿泊療養者が 88 人から 235 人、自宅療養者が 64 人から 184 人、入院・療養等調整中が 93 人から 414 人となっております。

全療養者に占める入院患者の割合は約 31%、宿泊療養者の割合は約 19%であります。現在、オミクロン株の患者は全員入院とされており、入院患者数の増加に影響を与えておりません。

デルタ株より感染拡大のスピードが速いとされるオミクロン株の急激な感染拡大に備え、海外の感染状況を踏まえ、感染者の基礎疾患、重症度、年齢構成等を把握、分析しながら、

入院医療、宿泊及び自宅療養の計画を前倒しする必要があります。

都は 14 か所、4,200 室の宿泊療養施設を確保し、施設の受入時間帯を拡大する等、効率的な運営に取り組んできました。また、オミクロン株の感染拡大に備えた特別対応として、1 月中に 4,760 室を確保するとともに、今後のオミクロン株の患者の受入れに向けて、さらなる宿泊療養施設の確保、開設の準備を進めております。

感染拡大による自宅療養者の急激な増加に備え、健康観察の充実を図る必要があります。このため、都は、陽性判明直後から、かかりつけ医や診療・検査医療機関が健康観察を開始する取組、地域の医師等による電話・オンラインや訪問診療の充実、フォローアップセンターの相談員の増員等を進めるとともに、あらかじめ人材情報を登録可能な「東京都医療人材登録データベース」を設置し、更なる体制強化を進めております。

都は、これまでパルスオキシメータを区市保健所へ 26,660 台配付いたしました。また、フォローアップセンターからパルスオキシメータの自宅療養者宅への配送、自宅療養者向けハンドブックの配付、食料品等の配送を行っております。感染の拡大に備え、酸素濃縮器をさらに確保するとともに、すべての自宅療養者に行き届くよう、パルスオキシメータの確保が求められます。

⑦重症患者数です。

重症患者数は前回の 1 人から 1 月 5 日時点で 3 人となりました。人工呼吸器を装着した患者は 2 人、人工呼吸器から離脱した患者が 1 人、人工呼吸器使用中に死亡した患者さんはいらっしゃいませんでした。ECMO を使用している患者さんもいらっしゃいません。重症患者に準ずる人工呼吸器等の治療が間もなく必要になる可能性が高い患者さんが 9 人いらっしゃいます。

1 月 5 日時点で重症患者数は 3 人であり、救命救急医療提供体制との両立が可能であると考えます。現時点で、オミクロン株感染者の中から重症患者は発生しておりませんが、今後の推移に注視する必要があります。

重症患者の年代別内訳は 50 代が 2 人、60 代が 1 人。性別では男性が 2 人、女性が 1 人です。高齢者のみならず、肥満、喫煙歴のある人は、若年であっても重症化リスクが高くなります。あらゆる年代が感染による重症化リスクを有していることを啓発する必要があります。

今週報告された死亡者数は 1 人でありました。1 月 5 日時点で、累計の死亡者数は 3,175 人となっております。

⑦-3 です。

重症患者さんのうち 1 人は、人工呼吸器管理期間が 14 日以上に及ぶ長期化した重症患者さんとなっております。

私の方からは以上であります。

【危機管理監】

ありがとうございました。

それでは意見交換に移ります。

まず、ただいまご説明のありました分析シートの内容につきましてご質問ある方いらっしゃいますでしょうか。

ないようですので、都の今後の対応に移ります。

年末年始における感染事例及び感染拡大時の保健医療提供体制について、福祉保健局長よりお願いいたします。

【福祉保健局長】

はい。まず、年末年始の都内の感染状況でございます。

新規の感染者数は、昨年末から増加傾向にございましたが、年明けから急激に感染が拡大してございます。

とりわけ 20 代 30 代が約 5 割、6 割を超える日もある等、若い世代で感染が拡大しております。

次お願いします。

また、年末から年明けにかけて、オミクロン株感染者が急拡大しております。先ほどお話ございましたようにデルタ株からオミクロン株に置き換わっている可能性があります。

次お願いします。

年末年始に都内で発生したこれらの感染事例について、いくつか簡潔にご説明させていただきます。

会食の事例というのはかなり見受けられまして、その中でも、例えば 100 人規模という人数でのパーティーにより感染した、或いは海外から帰国した友人、親戚の方との会食等により感染した事例というようなものが見受けられます。

また複数の遊戯施設を 5 時間にわたって、大人数でハシゴした事例、マスクをつけずに公演活動を行ったアイドルグループもメンバーでクラスターが発生している等、様々なクラスター事例が発生しておりますが、これらはすべてマスクを正しく着用していないということも確認されておまして、リスクの高い行動によりクラスターが発生しております。

このようなリスクの高い行動、さらにオミクロン株の拡大ということも相まって、感染拡大に繋がっているものと考えられます。

こうしたことから、密を避けること、手洗い、マスクの正しい着用、こまめな換気等、基本的な感染防止対策の徹底が重要であると考えております。

先ほど大曲先生からも、デルタ株からオミクロン株への置き換わりが急速に進むというお話がございました。このようなことを念頭に、オミクロン株の感染拡大に警戒する必要があるというような観点から、都における、オミクロン株への備えについてご説明させていただきます。

次お願いします。

昨年末以降、オミクロン株特別対応として、医療提供体制としては病床確保レベルを計画より早い段階で、レベル3に一気に引き上げると、或いは医療機関や酸素・医療提供ステーション等、臨時の医療施設等について拡充に着手する等、早め早めの対応で、感染の急拡大に努めることとしております。

また、宿泊療養施設につきましては、今月中旬に 4,760 室稼働体制としております。

ここに記載してございませんが、さらに拡充しまして、11,000 室を確保して、行う形で調整しているところでございます。

さらに 1 日最大 10 万件の検査体制を整備するとともに、感染不安を抱える方や、あらかじめ感染不安を解消しておきたい事情がある方に対して、無料検査を実施し、感染拡大防止を図っているところでございます。

オミクロン株の感染の急拡大に備えて自宅療養体制についても強化をいたします。発熱相談センターは、すでに 30 回線を増やして 100 回線に増強してございます。また自宅療養者フォローアップセンターは、計画の 250 名体制からさらに増強にも着手してございます。

また、医療機関による健康観察や往診体制、オンライン診療等、自宅療養者のサポート体制を強化するとともに、経口薬については、医療機関、薬局合わせて 2,275 件が登録され円滑な供給体制を確保しているところでございます。

保健所につきましては人材の確保を前倒しで進めるとともに、健康観察の進捗の見える化や、チャットボット、ウェアラブル端末による健康観察等、DX による保健所業務の改善を進めて参ります。また宿泊療養を希望する患者が直接申し込む体制を強化いたします。

ワクチンの追加接種につきましては、医療従事者やクラスターが発生しやすい高齢者入所者、従業者、一般の高齢者及び警察・消防関係者について、国や区市町村等と調整を図りながら、追加接種の前倒しを進めて参ります。

私からは以上でございます。

【危機管理監】

ありがとうございました。

ただいまのご報告についてご質問等ありますでしょうか。

よろしいでしょうか。

よろしければここで東京 iCDC からご報告いただきます。

総括コメント、都内主要繁華街における滞留人口のモニタリング、変異株 PCR 検査、そして総合的な感染症対策につきまして賀来先生からお願いいたします。

【賀来先生】

はい。まず、分析報告へのコメントをさせていただきます。

ただいま、大曲先生、猪口先生から新規陽性者数の増加比が、これまでにない高い水準となり、新たな変異株オミクロン株に置き換わり急速な感染拡大に警戒する必要があること。

また、医療体制においても、感染状況を分析しながら、入院医療体制、宿泊及び自宅療養の計画を前倒しする必要があるとの報告がありました。

年末年始の人の移動等、今後、オミクロン株による急速な感染拡大の可能性があるため、早急に医療診療体制の強化、3回目のワクチン接種の推進を図るとともに、全世代での感染対策の徹底を図っていく必要があると思われまます。

続きまして、繁華街滞留人口のモニタリングについて、お話をさせていただきます。

これは西田先生の資料をもとにご説明をいたします。

次の資料をお願いいたします。

初めに、今回の分析の要点について申し上げます。レジャー目的の夜間滞留人口は、例年通り、年末年始に減少しておりますが、前年の同時期と比べると高い水準にとどまっております。

次のスライドをお願いします。

要点で申し上げました通り、夜間滞留人口は、減少はしていますけれども、前年の同時期と比較すると高い水準にあります。

次のスライドをお願いします。

こちらは、各時間帯の滞留人口の推移を、日別に示したものです。減少傾向が続いています。

次のスライドをお願いします。

実効再生産数の直近の値は1.39と増加傾向にあります。

次のスライドをお願いします。

ステイホーム指標は、年末年始の休暇の影響で急増しています。休暇中は帰省や旅行を自粛され、自宅周辺で過ごす方も多かったということが伺われます。ただ、前年の同時期と比較しますと、低い水準にとどまっています。

今後、新年会等、再び夜間滞留人口が増加に転じる可能性があります。感染拡大を回避するためにも、一人一人が感染対策を徹底することで、感染リスクを減らしていくことが大変重要であると考えます。

繁華街滞留人口のモニタリングの報告は以上です。

次に、変異株について報告をさせていただきます。

年末年始からオミクロン株の確認例が、都内においても急増しております。

昨日までに、ゲノム解析の結果、72例がオミクロン株として確定し、東京都において公表されています。

今週のモニタリング会議から、オミクロン株であることが、早い段階で推測できる、L452R変異株の陰性となった件数及び陰性率についてお示しをさせていただきます。

まず、スライド左側の、検査の実施率ですが、12月28日の週は約61%となっています。

スライド右側のL452R変異株の陰性率の推移を示したのですが、陰性率、つまりオミクロン株と推測できる割合が、12月28日から1月3日の週に、前週の9.1%から大きく増

加し、44.6%となっています。

なお、実施率及び陰性率については、民間検査機関等から追加の報告による更新が、可能性がある点について留意が必要です。

次のスライドをお願いします。

こちらは先ほどの PCR 変異株検査の実施状況の一覧です。

1月3日までのオミクロン株と推定できる件数、L452R変異株の陰性数は、冒頭にお伝えしました、ゲノム解析の結果、確定している72件を含め、152例となっております。

次のスライドをお願いします。

こちらのスライドは、オミクロン株と推測できるL452R変異株の陰性率と、N501Y変異株であるアルファ株及びL452R変異株であるデルタ株の推移を比較したグラフです。

見ていただきますように、赤い線、オミクロン株は都内で最初に確認されてから、3週間目ですでに40%を超えています。

これは、デルタ株が同様の40%を超えたものよりも8週間早く、アルファ株よりも11週間も早く40%を超えている。

いわゆるオミクロン株は非常に速いスピードで置き換わりが進み、このまま推移すると、早い段階で、感染の主体になることが想定されます。

次のスライドをお願いします。

東京都では、医療提供体制におけるオミクロン株特別対応として、オミクロン株の新規陽性者の7日間平均の推計が、100人以上となった場合には、病床確保レベルを1から3に移行することとしています。

こちらのスライドの表はオミクロン株の発生件数を推計したものです。こちらでも、オミクロン株の置き換えの速さがわかります。速報値ではありますが、直近の12月30日から1月5日の期間におけるオミクロン株発生件数の7日間平均の推計は81.2人と急増しております。

オミクロン株の発生状況等について注視するとともに、医療提供体制の確保等にも備えていく必要があると考えます。

東京iCDCにおいてもオミクロン株の発生動向について、引き続き監視して参ります。

次のスライドをお願いします。

このスライドはオミクロン株の状況についてまとめたものであります。

まだ十分な疫学情報が揃ってはおりませんが、現時点で、感染・伝播性が高まっていること、ワクチン効果を減弱する可能性や免疫からの逃避があること、さらに、再感染のリスクが増加すること等が示唆されています。

また海外の状況ですが、昨年12月20日時点で、WHOの六つの地域事務局があるすべての地域でオミクロン株の発生が確認されています。

英国では、12月30日時点におけるオミクロン株感染者は累計で24万人を超え、アメリカでは12月29日から25日の週の新規陽性者に占めるオミクロン株の割合を95.4%と推

定しています。

なお、アメリカでは、1月3日時点の1日当たりのコロナ陽性者数が、これまでで最多となる100万人を超える等、感染が急拡大しております。

東京都においても、感染拡大の兆候が見られることから、これまで以上に危機感を持って対策を進めていくことが求められると考えます。

次のスライドをお願いします。

こちらのスライドは、12月23日のモニタリング会議で報告した換気のポイントを1枚にまとめたものです。

換気が悪いと、空気中にウイルスが長時間漂うことがあります。ウイルスの伝播を防ぐには、部屋のウイルス量を少なくすることが極めて重要であります。冬場の寒い時期であっても、重要な関係が必要となります。これはオミクロン株であっても変わりはありません。

なお、換気にあたっては、窓を開けてよい換気経路を作ること。室温を18℃以上に、湿度を40%以上に保つこと、といった基本に加えて、24時間換気し、システムの活用、レンジフードの活用、空気清浄機の活用といったポイントを押さえることも非常に有効です。

これらの詳細につきましては、東京 iCDC のノートに感染予防のための換気のポイントとして、2部にわたって解説しています。換気の実践にあたり、ぜひご覧いただければと思います。

次のスライドをお願いします。

現在、オミクロン株が世界で流行しており、東京都でも、感染拡大の兆候が見られるようになってきています。

ブースター接種を含むワクチン接種を、積極的に進めるとともに、3密の回避、マスクの正しい着用、手洗い、換気といった基本的な感染予防対策を徹底する等、総合的な感染対策によって感染リスクの軽減を図っていくことが大変重要となります。

特にオミクロン株に関しては、気管支を含め、上気道での増殖性が極めて高いとの報告があることから、不織布マスクをしっかりと顔に密着させて着用し、ウイルスの侵入を防ぐことが、感染症対策において、今まで以上に大変重要になると思われます。マスクの使い方、マスクの着用の仕方を、今一度徹底していただければと思います。

今後の継続した感染症対策は極めて重要で、円滑な社会経済活動の鍵になるものと考えられます。

私からは以上です。

【危機管理監】

ありがとうございました。

賀来先生からのご説明についてご質問ある方いらっしゃいますでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは会のまとめといたしまして知事からご発言をお願いいたします。

【知事】

はい。今年最初の、モニタリング会議でございます。

雪が降る中、本日も猪口先生、大曲先生、賀来先生、上田先生、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

感染状況について、「黄色」ということで、これは一段上がり、そして、「感染拡大の兆候があると思われる」との総括コメントをいただいております。

感染状況、医療提供体制ですが、まず、新規の陽性者数の増加比は著しく上昇して、これまでに経験したことのない高い水準になっていると、デルタ株からオミクロン株への置き換えりによる、急速な感染拡大に警戒する必要がある。

また、オミクロン株の急速な感染拡大に備えて、海外の感染状況を踏まえて、感染者の基礎疾患、重症度、年齢構成等を把握、分析しながら、入院医療、そして、宿泊、自宅療養、これらの計画を前倒しする必要がある、これらのご報告をいただきました。

賀来先生から、L452R陰性率、オミクロン株の疑いですが、こちらが急上昇していると、このまま推移すると、これまでのアルファ株やデルタ株よりも早いスピードで置き換えりが進んで、感染の主体となるとのご報告でありました。

このような状況を踏まえて、都におきましては、すでにオミクロン株の特別対応として先手先手で総合的な保健・医療提供体制の強化等に取り組んでいるところでございます。

以上を踏まえまして、ここから皆様方へのお願いであります。

手洗い、マスクの正しい着用、十分な換気、そして3密の回避等、基本的な感染防止対策の一層の徹底を改めてお願いをいたします。

少しでも体調に異変を感じる場合、外出や人との接触はお控えください。咳、発熱等の症状がある方は、お近くの診療検査医療機関、こちらを受診をしていただきたい。

都といたしましては、感染状況等に応じて、タイミングを逸することなく対策を講じることができるよう、必要な検討を進めて参ります。

感染拡大を抑えるためには、これは何度も申し上げておりますが、お一人おひとりが危機感を持って対策を徹底する、そのことが必要であります。皆様のご理解そしてご協力を、改めて新年早々ではございますが、お願いを申し上げます。

以上です。

【危機管理監】

ありがとうございました。以上をもちまして、第73回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議を終了いたします。

なお次回の会議日程は別途お知らせいたします。ご出席ありがとうございました。